

WEEKLY SIGNAL

2020年10月9日(金) 1545号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	10/12(月)	10/13(火)	10/14(水)	10/15(木)	10/16(金)
無担保O/N			△ 0.087%	～ 0.001%	
銀行券	+ 800	ト ン	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 14,900	+ 1,000	△ 8,000	+ 72,000	△ 3,000
資金需給	△ 14,100	+ 1,000	△ 8,000	+ 72,000	△ 4,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		源泉税揚げ	年金定時払い	
オペ期日	CP等買入 △ 200 国債補充供給 + 200				被災地支援 △ 100
オペスタート	国債買入 + 10,000 ETF買入 + 1,400				
(日本)	国内企業物価指数(9月)	日銀営業毎旬報告(10月10日現在)	鉱工業生産(8月)		
(海外)	米 コロンスデーのため休場	米CPI(9月)	米 クラリダFRB副議長、講演 米 ダラス連銀総裁、クオールズFRB副議長、講演 米 PPI(9月)	米 クオールズFRB副議長、講演 米 ミネアポリス連銀総裁、講演 米 新規失業保険申請件数 (10日終了週) 欧 EU首脳会議(16日まで)	米 ミシガン大学消費者マインド指数(10月) 欧 ユーロ圏CPI(9月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.020 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.130

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は、週初475兆4,400億円から始まった。その後は週を通して概ね横ばい圏で推移し、475兆7,500億円(速報)で越えた。無担保コールON物加重平均金利は、積み期終盤を迎え、さらにビッドサイドの調達意欲が強まったことにより、堅調な地合いが続き、上昇基調を辿った。7日は△0.008%(速報)と2020年2月13日(△0.008%)以来の約8ヶ月ぶりの高水準となった。ターム物は15～16日エンドのショートタームを中心に△0.015%～△0.005%の出合が散見された。日本銀行が10月8日に発表した10月の地域経済報告では、全国9地域のうち四国以外の8地域の景気の総括判断を引き上げた。なお前回調査(7月)では、新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての地域における景気の総括判断は引き下げとなっていた。来週の主な予定は、国内では12日に国内企業物価指数や14日に鉱工業生産の公表などがあり、海外では13日に米CPI(9月)や15日に米新規失業保険申請件数(10日終了週)の公表などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.020 ~ 0.000
TDB 3M	△0.130 ~ △0.080
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

＜C P＞

今週の入札発行総額は約5,000億円、週間償還額(約4,500億円)を上回った。発行市場は、連日商社による大型発行があったものの、週を通じて案件少なめで落ち着いた取引状況であった。先週末の市場残高は23兆3,371億円であったが、10月8日時点では23兆5,825億円程度となった模様。来週の週間償還額は、約4,700億円となっている。15・20日スタート絡みの発行が見込まれるが、現在企業のCP発行ニーズがやや鈍化しており、今週に引き続き落ち着いたマーケットを予想する。投資家の運用ニーズは強く、発行レートはマイナスから0%近辺の出合いを予想するが、発行量の少ない銘柄ではやや強いマイナスレートでの発行が見込まれる。13日に、CP等買入オペが6,000億円程度オフアされる予定。

＜TDB＞

8日の6M942回債(4/12償還)の入札は、最高落札利回り△0.1122%(前回債△0.1410%)、平均落札利回り△0.1202%(同△0.1430%)となった。9日の3M943回債(1/18償還)の入札は、最高落札利回り△0.0875%(同△0.1418%)、平均落札利回り△0.0945%(同△0.1525%)となり、入札後△0.089%～△0.085%の出合が見られた。そのほかセカンダリーでは概ね3M物が△0.145%～△0.135%のレンジ、6M物が△0.145%～△0.115%のレンジ、1Y物が△0.150%～△0.135%のレンジで取引された。

＜レポ＞

足許GC取引は、週初から週末まで△0.075%～△0.065%で推移した。3日積みとなる9日受渡しではレートが低下し、△0.08%台が出合いの中心となった。短国3M、6Mの発行日が重なった12日受渡しでは、△0.06%台まで上昇して越えた。SC取引は2年408～417回債、5年137～144回債、10年340～360回債、20年169～173回債、30年59～67回債、40年10～13回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。